別紙３

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

令和６年度

つくばの学び推進方針2024

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園

令和６年(2024年)４月

これからのやさしさのものさし つくばSDGs

◆◆巻頭の言葉◆◆

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

令和6年度がスタートしました。人口減少、少子高齢化、テクノロジーの進展による社会構造の変化に加え、新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変しました。これからの社会は、ますます予測困難で、多様性に満ちた正解のない時代となることが考えられます。

そのような時代を生き、切り拓いていくのは、紛れもなく子供たち自身です。これまでの慣例にとらわれることなく、問題を自分事として捉え、より柔軟な発想をもって行動し、変化に対応する力が求められています。

正解のない問いに自ら向き合い続ける粘り強さ
仲間と納得解を見つけ出す協働力
社会をよりよくしたいと希求する飽くなき探究心

これらの力は、子供たちが大人になって突然身に付くものではなく、まさに今、学校教育を通して育むべきものであると考えます。

つくば市では令和2年3月に、教育の根幹となる「つくば市教育大綱」を策定し、「教えから学びへ」、「管理から自己決定へ」、「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」と教育の考え方の転換を目指してきました。先の3つの力は、まさにこれらと対応するものであり、その育成には子供たちの「自己決定」を保障することが何より大切です。現教育大綱の最終年度である本年度は、この「自己決定」を基本として幸せに向かうための力を育み、今が幸せと実感できる教育、さらには将来の幸せへと繋がる教育を実現していきます。

各幼稚園、小・中学校、義務教育学校におきましては、つくば市教育大綱、つくば市教育振興基本計画、そして、このつくばの学び推進方針を活用いただき、つくば市の学校が、「みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～」として、子供たちのよき成長の場となりますよう願いまして、巻頭の言葉といたします。

令和6年4月

つくば市教育委員会教育長　　森田　充

目　　次

〇巻頭の言葉

1　グランドデザイン……1

2　今年度の重点目標
教えから学びへ　-探究的な学びに向けて-……2
教えから学びへ　-個別・双方向の学びへ-……4
教えから学びへ　-子供の姿チェックシート-……5
管理から自己決定へ……6
認知能力偏重から非認知能力の再認識へ……7
特別支援教育の充実……8
道徳教育の充実……9
つくばスタイル科……10
幼児教育と小学校教育の連携から接続へ……12

3　市教育の基盤
小中一貫教育……13
２学期制と自己形成力の育成……14
つくば市の ICT 教育……15
つくば市 GIGA スクール構想 ……16
コミュニティスクール……17

4　教育事業
①　各種訪問……18
②　刊行物一覧……18
③　派遣・配置……19
④　研究校・研究園……20
⑤　教育局組織……20
〇　小中一貫教育のあゆみ（平成 19 年度～令和５年度）……21
〇　学園一覧

目指す学園・学校像　　グランドデザイン

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園

～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

【目指す子供の姿】 自分事として捉え行動している

◆学びたいことを思いきり学び、学ぶ楽しさを味わっている　（教えから学び）
◆仲間と対話し支え合って、幸せな学級・学校づくりに参画している（管理から自己決定）
◆自分のよさや成長を実感し、安心して自己発揮している　（非認知能力の再認識）

自己・他者・社会への探求

教えから学びへ

●本物の問い・自分事の問い
●単元を意識した探究的な学び（委ねる学び）
●体験型・発信型の学び
●個別最適で協働的な学び
●柔軟なｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

認知能力偏重から非認知能力の再認識へ

●非認知能力を育む環境づくり
　学級・授業・特別活動
●教師の働きかけ
　変化の見取りと意識付け
●豊かな感性を育む
　体験活動・芸術文化活動
　読書・道徳教育

子供の主体性を「基本は自己決定」

管理から自己決定へ

●管理意識の転換
●自ら考え判断する機会の充実
●特別活動の充実
●学年・学級経営の充実
●生徒指導の充実

小中一貫教育
GIGA スクール構想
部活動地域移行の推進

保幼小連携の推進
特別支援教育の充実
不登校児童生徒支援の充実

学校
地域（ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙの推進）

地域・保護者と一体となって子供を育む学校づくり

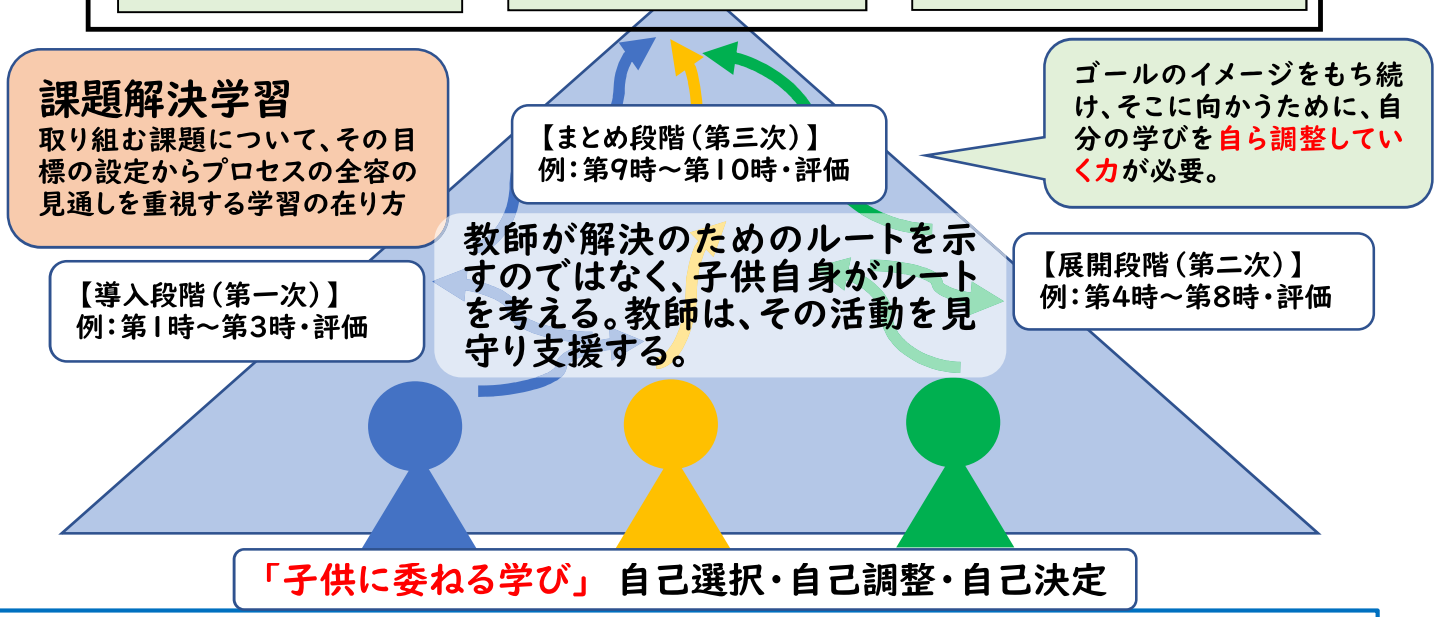
教えから学びへ

―単元を意識した探究的な学びに向けて―

単元を意識した学習課題（「教えたいこと」を「学びたいこと」に）

【ゴール】単元において子供が身に付けたい3つの資質能力
「問い続ける」力

知識及び技能（分かること・できること）	思考力・判断力・表現力等（考えること・表すこと）	学びに向かう力、人間性等（工夫して学ぼうとすること）



「子供に委ねる学び」 自己選択・自己調整・自己決定

～単元を意識した探究的な学びのデザイン～

1 単元において子供が身に付けたい3つの資質能力（ゴール）を具体的に設定する。

一単位時間ごとではなく、単元全体において3つの資質能力を身に付けた子供の姿を具体的に設定する。単元の指導事項を教材内容に合わせ子供が分かる言葉で表記し、共有する。子供がゴールを達成したら別のゴールを設定できるなど、教師が設定したゴールを超えてもよいとする視点をもつ。

2 単元を意識した学習課題を設定する。

教師が一方的に学習課題を与えるのではなく、子供とのやり取りを通して一緒に作ることが重要。まず、資料提示を工夫したり、問いかけたりしながら、子供から自由に学習課題として学びたいことを引き出す。たくさんの学習課題が出そろったら、教科の特性（各教科の見方・考え方）を踏まえ、身に付けたい3つの資質能力に迫るための「集団として学ぶ、意味ある問い（学習課題）」を、子供とのやり取りの中で設定する。

3 ゴールへ向かうために必要な学習活動と学習過程を子供が選択できるようにする。

ゴールへ向かうために、学習活動（知りたいこと、調べたいこと、話し合いたいことなど）を自ら考える。また、単元全体を見通し、学習過程（個々の自由進度※で探究的な学びを行う場面、グループなどで対話する場面、振り返る場面など）をどこに設定するかを子供が選択できるようにする。

※教師が決めた学習を一斉に行うのではなく、子供がペースとルートと方法を自由に決めること

4 課題を解決するための授業を展開する。

個々の特性や進度に応じて学びを保障する。（複線化、自由進度等）

5 学びのプロセスを見取り、適切にフィードバックする。

単元の学習を通して、どのような力が身に付いたかを子供自身が自覚できるようにするために、子供の学びのプロセスを見取り、実生活や次の学びにどうつなげていくかを子供と共に考える。

教えから学びへ

―単元を意識した探究的な学びに向けて―

なぜ、子供に委ねる(自己決定)場面が必要なのか？

「子供はいつも学びたいと思っている。」

子供たちは一人一人、興味関心も学びのスピードも習熟度も違っている。その違いを肯定し、それらがよりよく育つ環境と支援を提供するのが、これからの教師の重要な役割である。

子供に委ねる(自己決定)場面を設けることで、子供は自分に合った内容や方法を使って学びを調整することができ、結果的に授業の中で子供の多様性に対応することができる。

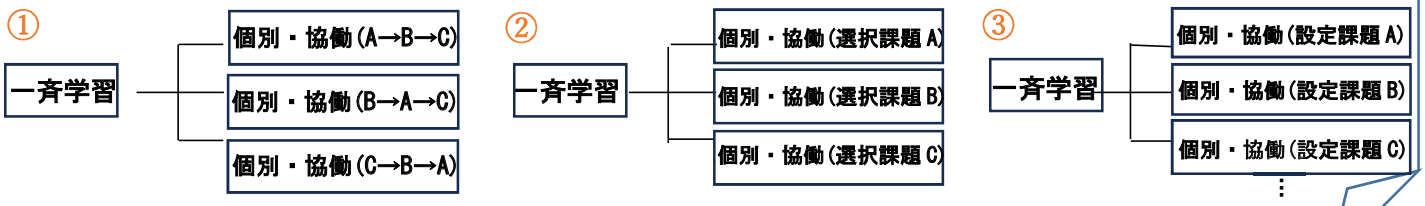
子供たちを信頼し、学びに関わる多くの決定を委ねることで、自律した学習者を育成する。

学ぶ内容編 【学ぶ内容を子供に委ねる学習展開例】

①順序選択学習：子供が学習内容や学習活動の順序を選択できる学習

②課題選択学習：子供が学習課題をいくつかの選択課題から選択できる学習

③課題設定学習：子供が学習課題や学習活動を、興味・関心に応じて自由に設定できる学習



※選択課題 ABC：教師が設定

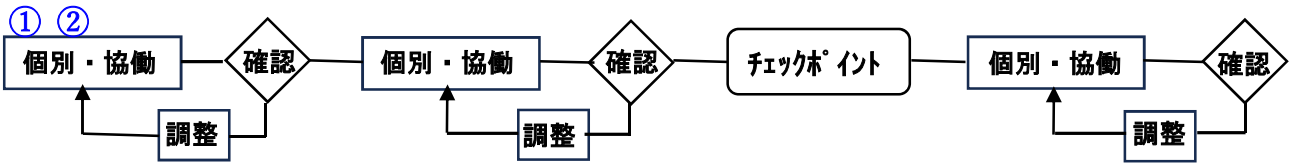
※設定課題 ABC：子供が設定

学び方編 【学ぶ方法を子供に委ねる学習展開例】

①１時間内自由進度学習：子供が１時間の中で自由に進める学習

②単元内自由進度学習　：子供が単元内の数時間の中で自由に進める学習

※教科や単元の特性、子供の実態や発達段階に応じ、計画的・段階的に実施する



※確認：進度や達成度を子供が自分で確認する　※ﾁｪｯｸﾎﾟｲﾝﾄ：教師によるﾁｪｯｸを行い、子供の理解度や困り感を把握する

教師の役割 【子供に委ね、自己決定の場を設定し、自律的な学びを促す】

単元構想：単元を意識した探究的な学びとなるよう、授業をデザインする

環境設定：子供の学びの広がりを予想し、必要な教材・教具を準備する

見取りとﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ：子供の学習の様子を見取り、適切にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸする

また、必要に応じて全体に共有したり、単元構想を修正したりする

＜１時間完結型授業の重要ポイント＞

教えから学びへ

― 一斉・一方向教育から 個別・双方向の学びへ ―

学びを引き出す教師の役割

・ティーチャー（学習内容・方法を教える）
・ファシリテーター（環境設定、活動全体の調整する）
・コーチ（学びを支え、励まし、フィードバックする）
・ジェネレーター（共に活動し振る舞う）

教えから学びへ向かう子供の姿（自律的な学習者へ）

① あらゆることに問いを立て、追究・探究し解決しようとする姿
② 自分で計画を立て、着実に学びを進めようとする姿
③ 他者へ自分の考えを発信し、問いかけ、その意見を取り入れようとする姿
④ 自己形成を実現するために自分がすることや何をすべきか判断することができる姿

(1) 導入：学ぶ意味・意義を感じるために
～本物の問い・自分事の問いから始まる学び～

○ 「問い」を探究していく学習課題に転換する
・題材に出合い、興味関心をもって探究していく学習課題を設定する
・自分事（日常生活、行事等と関連）として必要感のある学習課題を設定する

○ ゴールを具体的な姿でイメージし見通しをもつ
・既習内容を、課題解決に生かす視点にする
・子供が自己決定した課題解決の方法や順序（学習計画）を生かす

(2) 展開：自己決定をして深い学びを実現するために
～自律的な学びが保障され子供自身が学び方をデザイン～

○ 一人一人に応じた支援と学習環境の中で自分の意見をもつ

○ 学習内容の特性に合わせて個別・協働・一斉の割合を子供に委ねる
・知識を獲得する、技能を習熟する学習（個別最適な学び）
・自分の考えをもち、多様な考えに触れる学習（協働的な学び）
・対話を通して考えを共有し、深める学習（全体）

○ 学習場面に応じて ICT を効果的に活用する

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために

・様々な場面（検索、思考整理、表現、コミュニケーション）でのツールとしての活用
・個のペースに合わせた学習をすすめるためのインタラクティブスタディや課題を多面的、多角的に捉えるための生成 AI の活用

(3) まとめ：自分自身のプロセスを振り返る
～子供自身の成長の自覚化～

○ 振り返りの時間を確保する

○ 視点が明確になるように振り返りを書く
・「達成感」「友達の参考になる考え」「自分の学び方」「これから学びたいこと」など
・振り返りが前時や次時の学びの文脈とつながるものにする
・教師は非認知能力の涵養を意識したフィードバックを行う

↑ 単元全体の中の一時間として捉えることで、授業が全て個別・協働の時間として展開することもできる ↓

「教えから学びへ」　子供の姿チェックシート
―単元を意識した子供主体の学びに向けて―

場面	「教師」が準備するチェック項目	✔
教材研究時	単元のねらい、授業のねらいを明確にもって、授業に臨んでいる。	
	子供たちの実態を把握して、単元を通した授業の計画や支援、環境を準備している。	

場面	「子供」が主語となる授業の姿チェック項目	✔
導入、自力解決時	単元の中に自分の「問い」を学習課題として設定している。	
	学習のゴールの姿をイメージしている。	
	課題に対して解決する方法を計画している。	
	十分な時間が確保された中で課題解決に向けて自分の考えをもっている。	
個別、協働時	学習内容の特性に合わせて学び（個別・協働）を選択している。	
	課題解決の視点（「何を」「どのように」解決するのか）を理解している。（一人一人が課題解決に向けた活動の中身を理解している。）	
	選択した学びの中で自己調整しながら解決に向けて取り組んでいる。	
共有、練り上げ時	子供たちが他者の考えを取り入れながら考えをつないでいる。	
	互いの考えを共有・比較することで、考えを広げたり深めたりしている。	
	深めた考えを確認し、自分の言葉等で表現しようとしている。	
終末時	学びのつながり（学びの文脈）を意識して授業を振り返っている。	
	学びを振り返り、自分自身の成長に生かそうとしている。	
家庭・日常との連携	学校での学びを生かして、家庭でも主体的に学び続ける姿が期待できる。	

管理から自己決定へ　―「受動」から「能動」へ―

自分事として捉え、考え、自分で決める

考える力　判断力　行動力

他を大切にすることを大事にしながら、自分で考え、判断し、行動していける力を意識
■子供が主体的に考える場面が設定されているか。
■子供が自己決定する場面が設定されているか。

自分たちが幸せな学校をつくる　～ルールメイキング等の取組～

対話を通した、多様な自己決定場面を設定

子供たちの自己決定する力を育成するため、様々な立場の人との対話を通して、「納得解をつくるプロセス」を経験できる機会を様々な場面で設定する。自己肯定感や自己効力感・社会参加意識の向上とともに、一人一人が幸せを実感できる学校づくりの実現を目指す。**※教師自身が対話の重要性を理解できていることが重要**

学年・学級経営でつくる自己決定場面

〇自ら考える自己決定場面への仕掛け
・自分たちで考え、解決していくための手立ての設定
・自らのチャレンジや失敗が許される心理的安全性のある学級づくり
・教えるのではなく、気付かせる
◎自分事として考えられる学年・学級

授業や特別活動等でつくる対話場面

〇納得解をつくるプロセスへの仕掛け
・あらゆる場面で、様々な立場の人との話合いの設定・充実
・素直に課題を出し合い、話し合える環境
・対話を通した合意形成による成長
・対話力、コミュニケーションスキルの向上
◎多様な考えを大切にする

生徒指導の充実「させる」ではなく「支える」

【令和４年 12 月生徒指導提要改訂】

＜生徒指導実践上の４つの視点＞

１自己存在感の感受　２共感的な人間関係の育成　３自己決定の場の提供　４安全・安心な風土の醸成

＜重層的支援構造としての捉え＞

【プロアクティブ生徒指導】
・児童生徒の自発的な発達を尊重する働きかけ
・命の教育、いじめ防止教育等の未然防止教育
（SOS の出し方に関する教育年１回以上実施）
・教育相談体制の充実、地域社会との連携　等

【リアクティブ生徒指導】
・いじめ、不登校へのチーム支援・組織的対応
・積極的ないじめ認知、相談センター等との連携
・スクールロイヤーの活用
・警察、児童相談所、福祉部局との連携　等

重要

◎不登校児童生徒支援の充実
【校内フリースクールの全校設置、民間施設との連携、チーム学校として SC・SSW の積極的な活用】
◎不適切指導の根絶
【こどもの基本的人権の尊重、守られ・愛され・保護される権利、意見が尊重され最善の利益を優先】
◎日常的な「支える」生徒指導の充実　【和顔愛語の精神、ハートフルな関わり方や声かけ等】

※　参考：　文部科学省　令和４年 12 月「生徒指導提要」　こども家庭庁　令和５年４月「こども基本法」

認知能力偏重から非認知能力の再認識へ　-環境を通して育む-

非認知能力

数値で測ることのできない能力

（非認知能力の分類例）

VUCA の時代を生き抜くために必要とされる力

V:Volatility 変動性
U:Uncertainty 不確実性
C:Complexity 複雑性
A:Ambiguity 曖昧性

■自分と向き合う力■
「自制心」「忍耐力」「回復力」等
今の自分を維持するために必要な力

■自分を高める力■
「意欲」「向上心」「自信」「自尊感情」等
これからの自分を高めるために必要な力

■他者とつながる力■
「協調性」「共感性」「コミュニケーション力」等
他者と協働するために必要な力

「非認知能力」を育てる環境とは？

環境①【学級経営】安心・信頼の生活環境

他者への信頼感（認めてくれる人がいる）や自己有用感（自分は誰かの役に立っている）を実感できる学級づくり

◆ありのままの自分を出せる教師との信頼関係　⇒　教師は最大の人的環境
◆互いの意見を尊重して聞き合う、子供同士の受容的な関係　⇒　心理的安全性

環境②【授業(教科等横断的な視点)】探究的・協働的な学習環境

幼稚園教育：遊びを通した総合的な学び（学びの芽生え）　⇒　小学校教育：自覚的な学び
＜探究的・協働的な学習を通してどのような非認知能力を高めるのか？＞

■自分を高める力■
児童生徒が自分の問いをもち、自己選択できる機会を授業に設けることで、難しいことに直面しても自分の可能性を信じることができる。等

■自分と向き合う力■
学びを振り返ることで、自己理解を深め、よりよい自分を目指して失敗しても気持ちを切り替えて、再び取り組むことができる。等

■他者とつながる力■
探究的な対話をとおして、価値観の違う多様な考えに出会い、他者の感情や思いをその理由や背景を含めて想像的に理解することができる。等

環境③【特別活動・学校行事】実体験や試行錯誤が保障される環境

＜特別活動＞
◆自治的活動⇒他者と協働する力
◆自己指導の力の育成⇒自己を制御する力

目標を決めやりぬく力

＜学校行事＞
◆体験的な活動⇒主体的に考えて実践する力

「非認知能力」を育む教師の働きかけとは？

◆我慢が苦手な子に「我慢しなさい！」と我慢させる。
◆消極的な子に「積極的になろう！」と鼓舞する。
◆一人ぼっちになりがちな子に、無理に友達をつくらせようとする。

「押しつけ」では非認知能力は育めない

必要なのは、「押しつけ」ではなく
きっかけとなるような意図的な「意識付け」

教師は、児童生徒の行動や表情などちょっとした変化を見取ってフィードバックすることが大切です。この「意識付け」が、児童生徒の内側から発生する意識（内発的動機）をもてるきっかけとなるのです。

「こんな自分になりたい」という価値観をもつ児童生徒が、
自己を客観的に観察し、自己調整ができるようにするために

特別支援教育の充実

共生社会

「認め合い、学び合い、育ち合う」教育の推進

特別支援教育の推進 ＝ 全ての学校・学級において、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じ適切な学び及び必要な支援ができること

重点目標

自立と社会参加に向けた特別支援教育の推進

「インクルーシブ教育システムの理念を踏まえて、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加ができるよう、一人一人の生きる力」を培う教育の充実を図る。

努力事項	具現化のための取組
1　一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実	◇全教職員で取り組む特別支援教育の充実 ＊管理職及び特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の強化、校内委員会等の計画的・継続的実施 ＊一人一人の教育的ニーズに応じた支援内容や方法の理解を深めるための校内研修の充実 ＊特別支援教育巡回相談の積極的活用 ◇通常の学級における支援の充実 ＊特別支援教育の視点を生かした学級経営の工夫 ＊板書や教材等の工夫により全員が分かる授業の推進【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進】 ◇特別支援学級・通級指導教室における支援の充実 ＊障害の状況等に応じた適切な教育課程の編成 ＊通常の学級担任や特別支援教育支援員を含めた教職員間及び学校や学級間の連携による指導・支援の充実
2　児童生徒の相互理解を深める交流及び共同学習の推進	◇障害のある児童生徒に対する理解を深め、豊かな人間性を育むための交流及び共同学習の充実 ＊積極的な交流及び共同学習を通した多様性を尊重する態度の育成 ＊学習の目的や活動内容についての教職員間の共通理解による計画的・組織的な交流活動の実施
3　校種間及び関係機関等との連携を密にした支援の充実	◇本人及び保護者の意向を踏まえた「個別の教育支援計画」作成と活用による支援の充実 ＊幼児期から学校卒業までの円滑な接続のための情報の引継ぎ（支援計画等の情報の共有）や、関係機関によるケース会議等の推進 ＊保・幼・小・中・高・特における引継ぎと連携による切れ目ない支援

道徳教育の充実

―自己・他者・社会を探求する学びを目指すために―

道徳教育

・学校の教育活動全体を通じて行う
・他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

道徳科

・道徳教育の要
・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

道徳

目標は共通！

学校教育における「道徳性」とは

道徳性を構成する諸様相

【道徳的判断力】
それぞれの場面において善悪を判断する能力

【道徳的心情】
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

【道徳的実践意欲】
道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

【道徳的態度】
道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳科における指導方法の工夫

①教材を提示する工夫

【道徳的価値への動機づけ】
・事前アンケート　・名言　・数字
・クイズ　・実物　・動画　・音楽　等
【教材への動機づけ】
・紙芝居　・音楽　・動画　・劇　等

②発問の工夫

【基本発問　中心発問　補助発問】
・考える必然性や切実感のある発問
・自由な思考を促す発問
・物事を多面的・多角的に考える発問
・自己を見つめる発問
※子供の発言をつなげて、価値理解を深める。

ICTの活用を！

③話合いの工夫

・事前学習　・ペアトーク
・グループ　・相互指名
・心情メーター　・ワールドカフェ
・意図的指名　・思考ツール
※多様な意見の交流を！

④書く活動の工夫

【目的】
・学習の個別化
・多様な感じ方、考え方
・意図的使命
・評価に生かす
・ねらいに対して、今の自分の良さや課題を自覚する

【ツール】
・ノート
・ワークシート
・端末

⑤動作化、役割演技など表現活動の工夫

【役割演技】
特定の役割をもって即興的演技から深める方法
【動作化】
動きを忠実にまねをして時間的理解を深める方法
【劇化】せりふや演技や状況などのまね
【疑似体験】一定条件での追体験的活動

⑥板書を生かす工夫

【縦書き　横書き　対比書き】
・思考を深める重要な手掛かり
教師の明確な意図をもって、構造化、焦点化された板書を！
・スクリーンとの併用でより効果的に！

⑦説話の工夫

・教師の体験談や願い
・児童生徒の日常生活における身近な話題
・児童生徒の関心や視野を広げる時事問題
・ことわざや格言、詩　・心に残る標語
・地域の自然や伝統文化　等

道徳科の評価

・学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、支援に生かす。
・多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視。

つくばスタイル科　―9年間を貫く次世代カリキュラム―

つくば市独自の教科「つくばスタイル科」とは

平成24年度、文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、つくば市ならではの9年間を貫く次世代カリキュラムとして「つくばスタイル科」を創設した。右の7つの内容をもとに探究のステップ（**IN（課題を見付ける）・About（情報を見付け、考える）・For（何ができるか考え、発信する）**といった問題解決の流れで構成され、子供たちの日常生活における体験からの気付きや、身近な生活における課題感、社会情勢等への疑問、地域における特色への興味関心などの「問い」から、学びが始まる。そこから課題を発見・設定し、解決するためのプロジェクトを立ち上げ、「In」「About」「For」の探究のステップで解決をしていく。そして自分の考えや提案等を発信することで、多様な他者からフィードバックを得て、さらによりよい形を追究し、自分の考えが新たに更新されていく学びを行い、プロジェクトを達成していく教科である。

つくば21世紀型能力とは

「つくば 21 世紀型能力」とは、次世代を担うつくば市の児童生徒に身に付けさせたい力として「21世紀型スキル」を基盤とし、つくば市の目指す資質能力を加え、以下の4分類6種15の力として構築・整理したものである。（詳細は、つくばスタイル科単元プラン集参照）つくばスタイル科の学習を通して、「つくば 21 世紀型能力」を育成する。

分類	種	力
Ⅰ　思考に関するスキル	A　問題解決	1　客観的思考力
		2　問題発見力
	B　自己マネジメント	1　自己認識力
		2　自立的修正力
	C　創造革新	1　創造力
		2　革新性
Ⅱ　行動に関するスキル	D　相互作用	1　言語活用力
		2　協働力
Ⅲ　手段・道具を活用するスキル	E　情報 ICT	1―1　情報活用能力
		1―2　プログラミング教育実践力
		2―1　情報の科学的理解力
		2―2　プログラミング教育の科学的理解
		3　情報化社会に参画する態度
Ⅳ　世界市民としての力	F　つくば市民	1　地域や国際社会への市民性
		2　キャリア設計力

つくばスタイル科単元プラン集とは

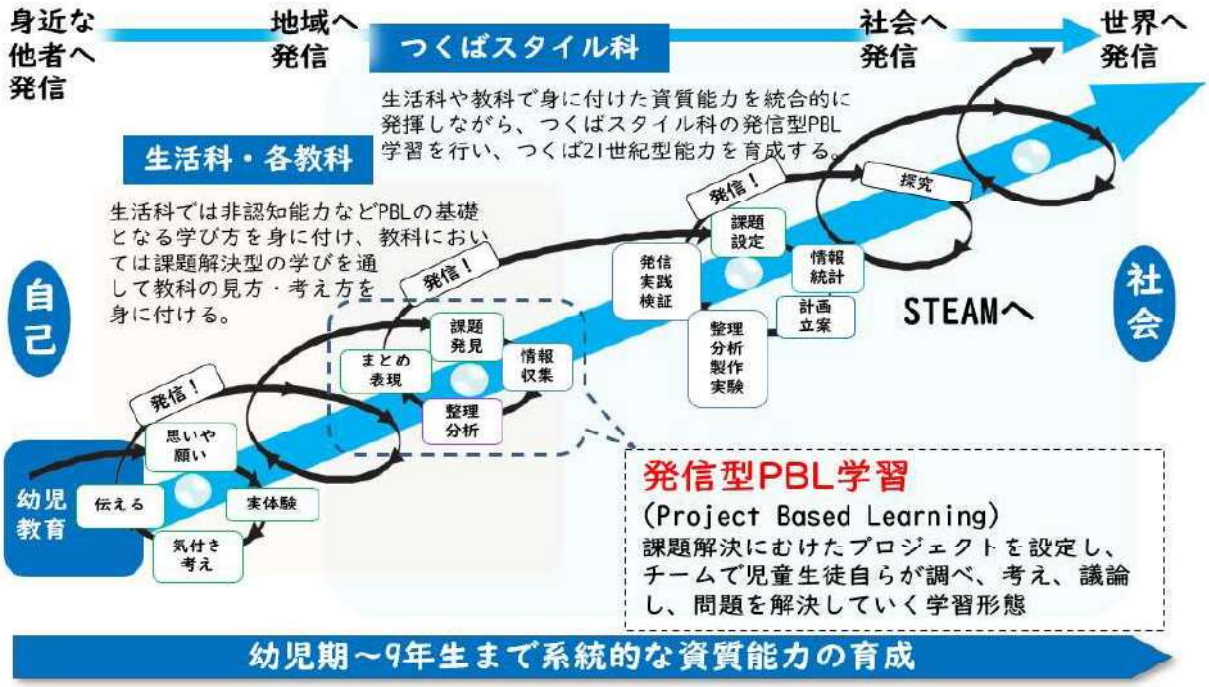
つくばスタイル科の実施については、総合教育研究所から「つくばスタイル科単元プラン」を発行している。授業プランだけでなく、実践事例活用できる教材の紹介も掲載しているので、ワクワクするプロジェクトづくりの参考にしてほしい。

つくばスタイル科の授業づくり

1 PBL

つくばスタイル科を支える発信型 PBL(Project Based Learning) 学習

日常生活における体験からの気付きや、身近な生活における課題感、社会情勢等への疑問、地域における特色への興味関心など、児童生徒自身の「問い」を基にして**①課題を発見・設定**し、**②情報を集め**、**③整理・分析**し、**④考えたことを発信**することによって、**⑤次の課題**を見付ける探究のステップで学びを進める。



2 カリキュラム

発信型 PBL 学習を効果的に行うためのカリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間を基に、道徳、特別活動、生活科の時数を一部加え実施する。

※各学年の時数については『つくばスタイル科単元プラン』参照

つくばスタイル科では、各教科での学習を生かした教科横断的な教育を目指している。そのための発信型 PBL 学習における探究のプロセスを十分に確保し、充実させるために**カリキュラム・マネジメントを行う。**

※ 1・2年生も外国語活動実施

3 資質・能力

つくばスタイル科を通して育成する『つくば 21 世紀型能力』

つくばスタイル科の特徴を生かし、つくば 21 世紀型能力の育成を目指す。

つくばスタイル科の学習を通して、上記のような探究のステップの中で、特に Society5.0 時代の課題をよりよく解決し、社会で活躍できる力や、SDGｓ（世界を変えるための１７の目標）を STEAM で達成できる力を育みながら、つくば 21 世紀型能力を育成することを目指す。

幼児教育と小学校教育の連携から接続へ

豊かな遊びを通して「**非認知能力**」を育む幼児教育
（挑戦心・最後までやり抜く気概・協調性・忍耐力・リーダーシップ等）

「育ち」と「学び」をつなぐ

小学校以降の「**主体的・対話的で深い学びへ**」

1　幼児と児童生徒の交流活動

生活科、技術･家庭科、つくばスタイル科などの授業で幼児と児童生徒が交流する機会を設ける。

幼児にとっては学校の雰囲気に慣れ、安心して就学に向かうことができる。一方、児童生徒にとっては、幼児に分かるように物事を伝える学習を通して、自己の成長を自覚できる。

2　保育者と教員の連携

幼児教育施設の保育者と小学校・義務教育学校の教員を対象に、連携・接続のための研修を実施し（H28～）、幼児交流活動の計画や接続カリキュラムの検討、情報交換などを行う。

また、保育者と教員が相互参観を行ったり、市研究指定園における研究内容の共有や研究を実施したりするなど、幼児への指導の仕方を学ぶ研修の機会を設定する。

幼児と児童生徒の交流活動
生活科、技術・家庭科、つくばスタイル科等の授業における交流
幼児：就学への安心感
児童生徒：交流により自己の成長を自覚

保育者と教員の連携
連携・接続のための研修を実施
（H28～）
＜対象＞
幼児教育施設の保育者
小学校・義務教育学校の教員

接続カリキュラムの検討や情報交換

「体制づくり」「カリキュラム作成」「教育方法の充実、改善」

接続カリキュラムの作成・実践
●幼児教育施設
アプローチカリキュラムの作成
●小学校・義務教育学校
スタートカリキュラムの作成
→架け橋期のカリキュラムの作成へ

家庭教育の支援
●生涯学習推進課
教育講演会の実施
●特別支援教育推進室
特別な配慮を要する幼児の就学相談

幼児と小学生児童との交流の様子

3　接続カリキュラムの作成及び実践

幼児教育施設では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、小学校教育に向かう【**アプローチカリキュラム**】を作成する。

小学校･義務教育学校では、学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐ【**スタートカリキュラム**】を実施する。

→５歳児～小学校１年生までの２年間の連続した一体的な「**架け橋期のカリキュラム**」の作成へ

4　家庭教育の支援

生涯学習推進課では、保護者や地域住民を対象に教育講演会を実施する。子育てに役立つテーマを設定し、幼児期の育ちを家庭と地域の両方で見守るため支援する。

5　特別な配慮を要する幼児の就学相談

特別支援教育推進室では、幼児の発達に関する保護者相談や特別支援に関する情報提供を行う。

小中一貫教育

1　なぜ小中一貫教育なのか

義務教育９年間を見通し、小中学校教育の連続性の確保を重視し、発達段階に応じた支援が重要であるため。

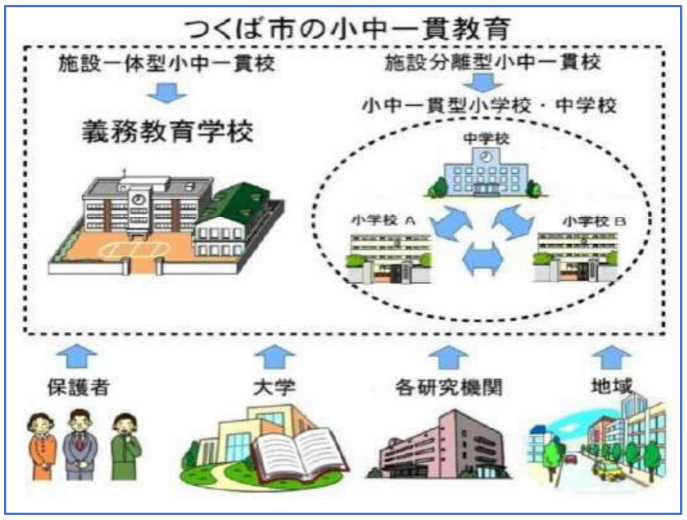
教育の課題

- ●人間関係の希薄化
- ●不登校児童生徒の増加
- ●中一ギャップ
- ●学ぶ意欲の低下

○成長の連続性の確保　○児童生徒の交流
○中一ギャップによる不登校の防止
○小学校での教科担任制による学習の展開
○系統性を重視した一貫性のある教育
○小中で情報を共有した生徒指導の充実

2　つくば市が目指す小中一貫教育の姿

各学園で義務教育９年間を貫いて共通の「教育目標・教育内容や手立て」が設定され、それらが学園の教職員に共通理解され、さらに、学園の保護者・地域の協力のもとで実施される教育をすすめる。



3　充実した小中一貫教育をすすめるために

(1) ９年間を通した教育計画

児童期から思春期にかけての成長期において、学習や生活支援の継続性、系統性のある教育を行うことが重要である。そのために、学園内で身に付けたい力・目指す児童生徒像を共有し、教育課程と年間計画を作成する。つくばスタイル科を含む各教科では、学びの連続性を生かした、柔軟で効率的な学習カリキュラムを編成し、資質・能力を育む。また、他者と関わる力を高めるため、各学年にふさわしいリーダー体験をねらった異学年交流や小小交流体験等を実施する。

(2) 組織運営体制の整備

小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校それぞれの特徴を生かし、家庭、地域・研究機関等との連携ができる体制を整備し、児童生徒の発達段階を考慮しながら、教科の専門性を生かす教科担任制を積極的に導入する。

(3) ICT 機器を活用した交流活動

１人１台端末等を活用した探究的な学びを積極的に取り入れるとともに、学園内外での小小交流活動、学園内での小中交流活動を行い、多様な人々と関わり、多様な考えに触れる場をつくり出す。

(4) 小中教職員の連携（生徒指導等）

学園内の教職員が連携・協力することにより、支援を充実させる。生徒指導については、小中学校で情報を共有することにより、学園内の児童生徒に対し、切れ目のない支援を行う。

小・中学校及び義務教育学校の教員の柔軟な人員配置を行うことで、教員の連携・協働を図り、校務の効率化を目指す。

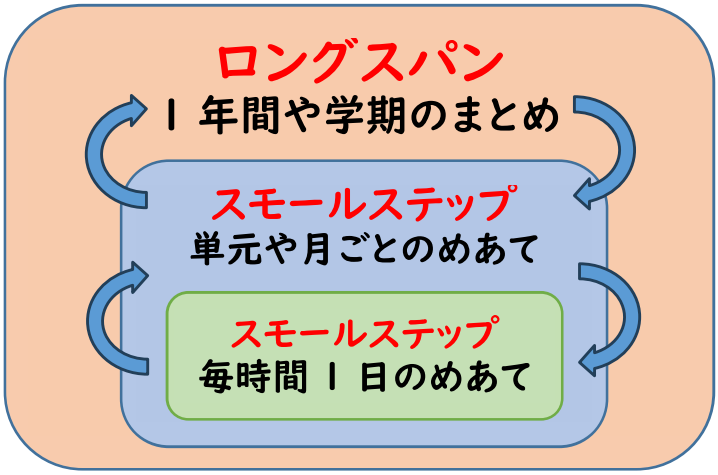
２学期制と自己形成力の育成

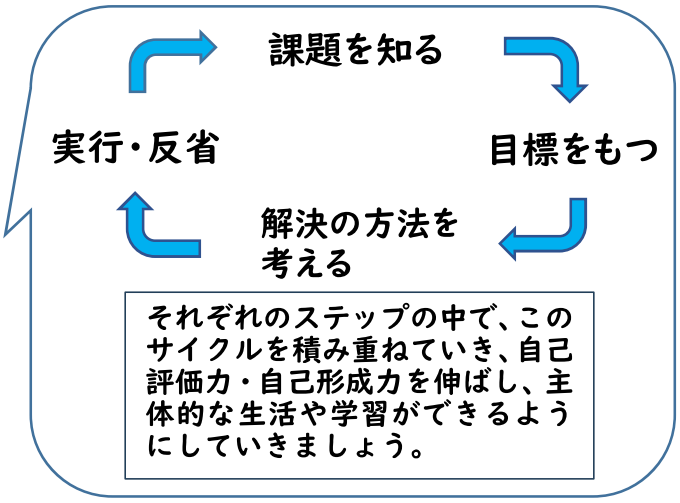
２学期制の基本的な考え方

子供たちが、「教えから学びへ」をキーワードに、自己評価力・自己形成力を伸ばし、主体的な生活や学習を目指すためには、自らの課題を知り、目標をもち、解決のための方法を考え、実行・反省し、次につなげるサイクルを積み重ねていくことが大切である。

そのため、学期の間に夏季休業が入ることで学習が分断されないよう、また、３学期が短い評価期間の学期にならないよう、つくば市では２学期制を採用している。

ロングスパン・スモールステップ





具 体 例

夏休み前の個別面談では、子供の情報を保護者と共有することで、夏休みが夏休み前までの学習の補充・継続・発展の期間となり、学習を連続させることができます。

○価値のある学習や生活の目標づくりを！

「あいさつをがんばる」「できるだけたくさん勉強する」
→　具体的に取り組める目標に！
「テストで毎回 100 点を目指す」「毎日○時間以上家庭学習をする」
→　少しがんばれば達成できそうな目標に！

＜取組例：スモールステップ　＞

【授業で】　毎時間の振り返り・単元ごとの振り返り（学びの自覚の積み重ね）
→ 教師・保護者が共有 → 次の学習への意欲や目標設定

【日常生活で】達成できそうな目標と短いサイクルの振り返り（成長の自覚の積み重ね）
→ 担任や保護者と共有 → 次の生活への意欲や目標設定

＜取組例 ： ロングスパン　＞

スモールステップでの積み重ねを長期休業の目標に生かす
→ 補充したいこと、もっと追究したいことなどを面談等で保護者と共有
数ヶ月の自分を振り返って計画する（補充・継続・発展）

つくば市のICT教育

先進的ICTを支えるつくばGIGAスクール構想

つくば市45年のICTの知見

つくば市の教育

つくば21世紀型能力

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

国が示す令和の日本型学校教育

つくばGIGAスクール構想

ネットワーク ＋ 1人1台端末 ＋ クラウド運用 ＋ 教育支援システム（スタディノート）

【校務系】
- 高速大容量NW
- 校務支援システム（C4th）

【学習系】
- ローカルブレイクアウト
- アセスメント体制構築

- 1人1アカウント（MicrosoftA3）
- 端末持ち帰り
- 学習者用デジタル教科書
- 保守サポート
- コミュニティツール（Teams）
- 各種研修

- Microsoft365
- 個々のプロファイル設定
- データ利活用
- 学習e-ポータル（L-gate）
- MEXCBT（文科省CBT）
- セキュリティポリシー策定

- デジタルノート機能
- ポスター機能
- 電子掲示板共有機能
- 配信機能
- アンケート機能
- 個別デジタルドリル

ICTで時空を超える『つくばシームレス教育』

学校と家庭を含めた学校外での学び、個別の学びと協働の学び、9年間の学びが時空を超えて切れ目なく繋がり、いつでもどこでも学びたいときに学ぶことができる。

個別と協働の往還

ＩＣＴで実現する『個別最適な学び』

家庭等で学校での学習を深めたり、予習・復習等の学びの続きを行ったり、自分に必要な学習をする。

自分の学習状況を把握して自分の学習計画を立て、自分のペースで学習をすすめる。

自分の興味関心があることをとことん追究するために、ICTを活用して調査・分析・共有・発信を行う。

個別デジタル教材等を活用しながら、学習の振り返りや復習を行い、自分の学習の理解状況を確認する。

ＩＣＴだからこそできる『協働的な学び』

電子黒板を使って考えを全体で共有・交流する。

他者と学習を共有・交流して、より深く学ぶ。

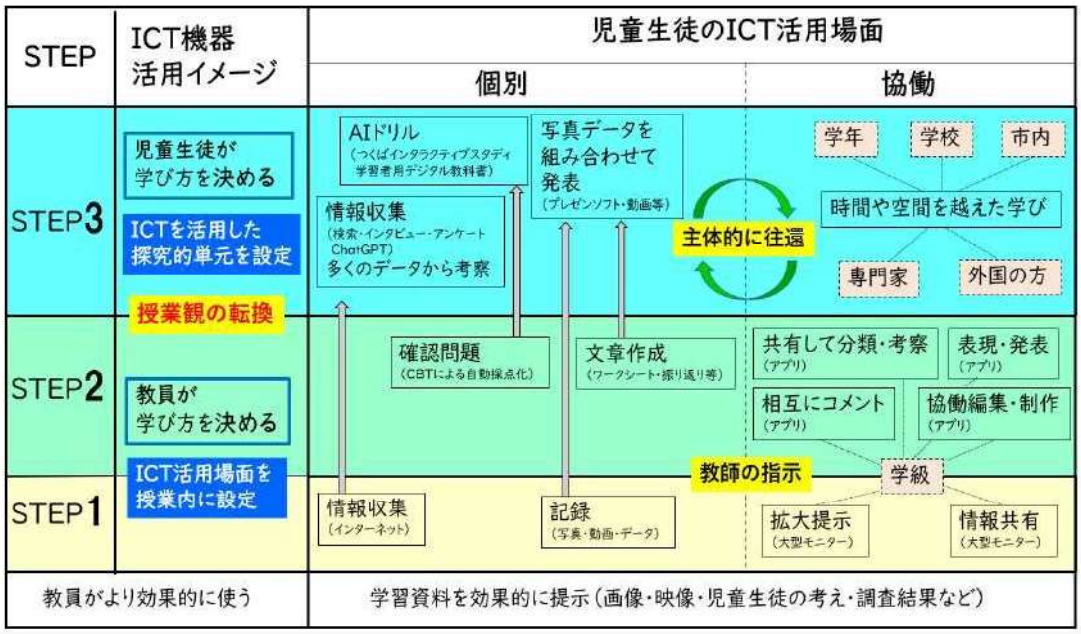
発信して成果を伝えることで、意見を交流し学びを深める。

芽生えた興味を学校外でも交流し学びを深め伸ばす。

ＩＣＴを活用した自己決定の実現

個別最適な学びと協働的な学びを往還しながら、探究を軸とした学びを進めるためには、右図のように、より効果的に学習者用端末を活用する。発達段階や実態に応じて、STEP１から、STEP2、3へと移行していく。

児童生徒一人一人の特性や学習進度などに応じ、指導方法や学習時間などを柔軟に設定するとともに、児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、自己調整や自己決定をしながら粘り強く学習に取り組む態度を育成する。



コミュニティ・スクールにおけるカリキュラム・マネジメント

ー社会全体で子供の育ちの場・学びを支える地域とともにある学校へー

コミュニティ・スクールとは、「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、地域と学校が連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子供たちに育む**「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すための有効なツール**のこと。

基本的な考え方　～「社会に開かれた教育課程」の実現のために～

「コミュニティ・スクール協議会（つくば市における学校運営協議会の呼称）」と「地域学校協働活動」の一体的な推進を通して

＜Point＞

- **教育課程を介して**目標を学校と社会が共有
- 子供たちに求められる資質・能力とは何かを**社会と共有し・連携**する
- **地域の人的・物的資源の活用**、社会と連携・共有しながら**学校教育を展開**
- **社会教育と連携**し、地域と学校が連携・協働して**社会全体**で未来を担う子供たちの成長を支える

つくばらしさを生かした教育課程の編成を通して

例：既存の仕組みや取組等を生かしたつくばスタイル科における発信型 PBL（Project Based Learning）など

- ◆「環境」：地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行したりする学習活動
- ◆「歴史・文化」：ふるさとについて地域住民から学び自ら調べたり、発表したりする学習活動
- ◆「キャリア」：地域の人材、産業について調べて地域の商店街の職場等での体験を伴う学習
- ◆ つくばスタイル科だけでなく、各教科における関連した学習　など

教育課程の実施並びに地域学校協働活動を通して

- ◆ 地域の理解と協力を得た教育課程の実施
  - ➢ 学習活動や校外活動、行事等への補助及び支援、地域の民間企業等による職場体験活動　など
- ◆ 学校内外の人的、物的な資源の活用
  - ➢ 大学、研究所や企業等による出前授業　など
- ◆ 放課後等の学習、体験活動
  - ➢ つくば未来塾、放課後子供教室　など
- ◆ 学校支援ボランティアの活用や組織化
  - ➢ 学習活動支援、環境整備支援、保健安全衛生など
- ◆ 家庭教育支援、保護者や地域住民等が学び合う機会づくり

「コミュニティ・スクール協議会（学校運営協議会）」

法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限（学校運営の基本方針の承認、学校運営や教職員の任用に関して意見を述べることができる等）をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のこと。

「地域学校協働活動」

コミュニティ・スクール協議会で話し合った内容（目指す子供たちの姿に対して、どのような資質を育むのかという目標や方向性）を具現化する活動のこと。地域住民や保護者、地域の支援団体等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えたり、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働したりして行う様々な活動のこと。

①各種訪問

種　別	内　　容	対象	訪問回数	訪問人数	備　　考
【小・中・義】 つくばの学び推進訪問 （計画指導訪問）	○　子供の学びの姿、授業改善の状況、生徒指導等の状況を把握し、学校の課題や授業についての指導・助言	学　校	１回	２～８人	小中学校 義務教育学校 ※ただし研究校は除く
要請訪問	○　各学園の研究課題についての指導・助言	学　園 （希望）	２回以内	随時	希望日の１か月前までに要請
つくばの学び研究校訪問 （研究指定校訪問）	○　伴走型による各指定学園の研究の推進および各学校の課題に応じた学びの質の向上	学　園 学　校	適宜伴走	２～３人	学校・学園の実態に応じて実施
	○　各園の研究の推進にあたって、その方向性、課題等についての指導・助言	幼稚園	３回程度	１～２人	研究発表の形態に応じて実施
【幼稚園】 つくばの学び推進訪問	○　園経営全般にわたる状況を把握し、園のもつ課題についての研究協議と指導・助言	幼稚園	１回	２人	全幼稚園
基礎研修 要請訪問	○　若手教員研修（初任から３年次）の「授業づくり」について指導・助言	学園 （希望）	１回	学園内の研修として実施 ※希望がない場合は、学園内の管理職・ミドルリーダーを講師として実施	

②刊行物一覧

No.	刊 行 物 名	内　　容
1	科学研究の手引（第 35 号）（※データのみ）	学校で科学教育を進めるための指導の手引き書
2	社会科副読本「かがやくつくば」 （※データのみ）	３・４年生を対象にした副読本
3	2024 年度版 つくばスタイル科単元プラン	全 26 単元プラン及びプログラミング学習案、思考ツールを掲載した単元プラン集
4	つくば市プログラミング学習・生成 AI 活用の手引き　第６版	プログラミング学習案集及びプログラム例示、生成 AI の教育活用を目指した事例集
5	つくば市先進的 ICT 教育実践事例集(2023) （※データのみ）	市内の学校で取り組んでいる、先進的な ICT 活用の実践事例を抜粋して掲載
6	これならできる小学校教科でのプログラミング教育　（東京書籍、2018）	プログラミング教育の理論とつくば市の取組について掲載
7	GIGA スクールで実現する新しい学び （東京書籍、2021）	１人１台環境での学力向上と全職員でのオンライン学習
8	つくば市 ICT 教育 45 周年記念大会 先進的 ICT で創る「未来の教室」（2022）	本市における 45 年間の ICT 教育の歩みと実践について掲載

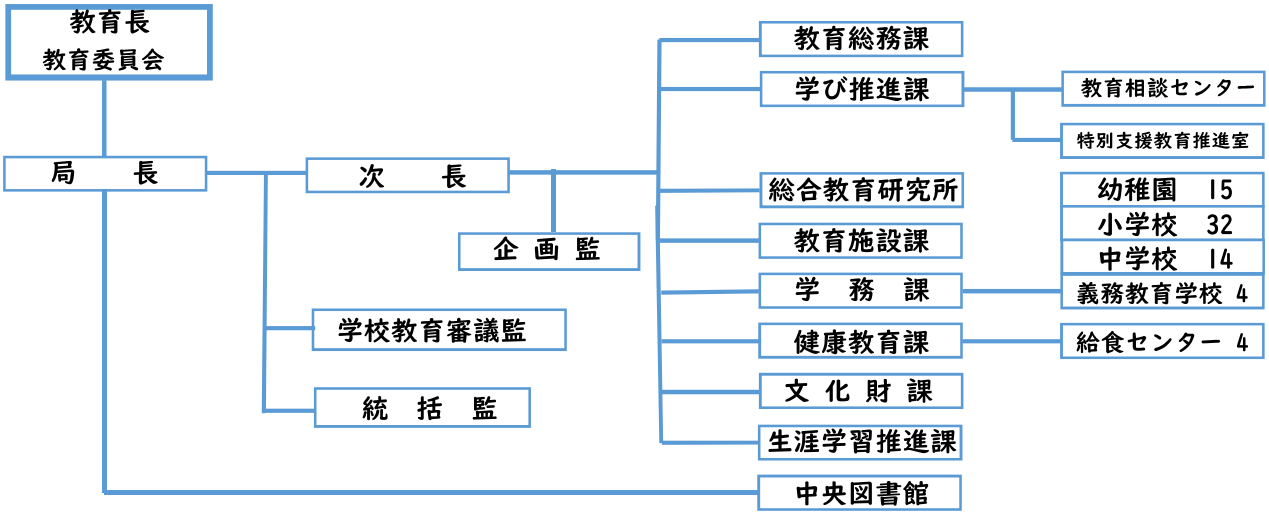
③相談・派遣・配置

種　別	内　　容	回　数	対 象 校
スクールロイヤー（新）	○学校における諸問題に対する法的な相談を受け付ける。	学校の実状による	学　校
学校教育指導員	○学校教育の実状を把握し、助言・指導を行う。	随　時	学　校
特別支援教育指導員	○特別な教育的ニーズのある幼児・児童生徒の学習及び生活状況を把握し、適切な助言・指導を行う。	年間計画による	幼稚園 学　校
ＡＬＴ	○外国語活動、外国語科の授業で国際理解教育やコミュニケーション力育成の指導を行う。	年間計画による	学校
学校ＩＣＴ指導員 学校ＩＣＴ支援員	○ＩＣＴ機器についての相談、授業におけるＩＣＴ活用の指導を行う。	随　時	幼稚園 学　校
スクール カウンセラー	○不登校、いじめ等の未然防止、早期発見及び早期解消を図るための相談活動を行う。	週１回～隔週１回	学　校
スクール ソーシャルワーカー	○本人だけでなく、家族や友人、学校、地域など周囲の環境に働きかけて問題解決を図る。	随　時	学　校
日本語学習支援員（新）	○日本語学習が必要な児童生徒に対し、個別の学習支援や授業への参加の補助を行う。	学校の実状による	学　校
日本語指導 ボランティア	○日本語学習が必要な児童生徒に対し、教職員とともに個別の学習支援や授業への参加の補助を行う。	学校の実状による	学　校
学校司書	○学校図書館（施設・蔵書）の活用を図るため、学校図書館司書教諭の補助を行う。	学校の実状による	学　校
特別支援教育支援員	○特別な支援を必要とする児童生徒の学習・生活上の補助を行う。	学校の実状による	幼稚園 学　校
理科支援員	○小学校（主に５・６年生）の理科授業における観察・実験等の補助を行う。	学校の実状による	小学校 義務教育学校
学校生活相談員	○学校生活等で悩んでいる生徒に対しての学習環境の整備と教育相談を行う。	学校の実状による	中学校 義務教育学校
校内フリースクール支援員	○校内フリースクールにおいて児童生徒への学習支援相談等を行う。	学校の実状による	学　校
校内フリースクール補助員（新）	○校内フリースクールの運営補助と児童生徒の見守り、相談等を行う。	学校の実状による	学　校
部活動指導員	○部活動顧問教員の代わりに部活動の指導等を行う。	学校の実状による	中学校 義務教育学校

④研究学園・研究園

指定元	事業名	期間	指定先	発表
市教育委員会	つくばの学び研究学園	令和５～６年度	豊里学園 桜学園	発表は令和６年度
		令和６～７年度	竹園学園 みどりの学園	発表は令和７年度
	教育研究助成	令和６年度	公募	―
市教育研究会	つくばの学び研究園	令和５～６年度	大穂幼稚園	発表は令和６年度
		令和６～７年度	竹園東幼稚園	発表は令和７年度

⑤教育局組織



小中一貫教育のあゆみ（平成 19 年度～令和５年度）

年　度	内　　容
平成 19 年度	・　教育委員会を中心とした小中一貫教育推進委員会の発足
平成 20 年度	・　吾妻中学校区による実践研究
平成 21 年度	・　吾妻中学校区、並木中学校区、高崎中学校区による実践研究 ・　実践参考書「つくば市小中学校教育カリキュラムの構想－連続性のある学びのために－」の発行
平成 22 年度	・　並木中学校区、高崎中学校区、筑波西中学校区による実践研究 ・　小中一貫教育推進委員会の設置 ・　「つくば市総合教育研究所」の設立、８月４日 ・　実践参考書「つくば市小中一貫教育カリキュラムの構想 －各中学校区実践事例と研究協力員の提言－」の発行
平成 23 年度	・　筑波西中学校区、竹園東中学校区、桜中学校区による実践研究 ・　小中一貫教育推進委員会の設置 ・　小中一貫教育研究つくば大会、11 月 24 日・25 日 ・　文部科学大臣より「教育課程特例校」指定、12 月 22 日 ・　実践参考書「つくば小中一貫教育カリキュラムの構築 －各学園の実践と教科等研究協力の提言－」の発行
平成 24 年度	・　15 学園（市内全小中学校）で小中一貫教育の完全実施 ・　施設一体型小中一貫校「春日学園」開園 ・　継続的実践研究（つくば竹園学園、さくら学園、つくば紫峰学園、 つくば豊学園、春日学園） ・　「つくば発！小中一貫教育が世界を変える　新設『つくばスタイル科』の取組」の発行
平成 25 年度	・　「第８回小中一貫教育全国サミット in つくば」の開催　11 月 21 日・22 日 ・　継続的実践研究（つくば紫峰学園、つくば豊学園、春日学園、 くすのき学園、手代木光輝学園、つくば茎崎学園）
平成 26 年度	・　継続的実践研究（くすのき学園、手代木光輝学園、つくば茎崎学園、 高山真名学園、つくば輝翔学園、つくば洞峰学園）
平成 27 年度	・　継続的実践研究（高山真名学園、つくば輝翔学園、つくば洞峰学園、つくば紫峰学園、 つくば百合ヶ丘学園、つくばＡＺＵＭＡ学園） ・　「つくば市小中一貫教育成功の秘訣 アクティブ・ラーニング『つくばスタイル科』による 21 世紀型スキルの学び：どこよりも早く明日の教育に出会える学園」の発行
平成 28 年度	・　継続的実践研究（紫峰学園、百合ヶ丘学園、吾妻学園、桜学園、 桜並木学園、豊里学園、高崎学園） ・　2020 年代の学びを変える先進的 ICT・小中一貫教育研究大会開催 11 月 21 日 ・　義務教育学校(春日学園）及び小中一貫型小学校・中学校(全小中学校)として制度化
平成 29 年度	・　継続的実践研究（桜学園、桜並木学園、豊里学園、高崎学園、 竹園学園、光輝学園、大穂学園） ・　小中一貫教育検証第三者委員会の設置（過去６年間の小中一貫教育の検証）
平成 30 年度	・　継続的実践研究（竹園学園、光輝学園、大穂学園、輝翔学園、洞峰学園、茎崎学園）
令和元年度	・　継続的実践研究（輝翔学園、洞峰学園、茎崎学園、高山学園、吾妻学園）
令和２年度	・　継続的実践研究（高山学園、吾妻学園）
令和３年度	・　継続的実践研究（コロナウイルス感染症拡大により実践発表は令和４年度に実施）
令和４年度	・　継続的実践研究（春日学園義務教育学校、秀峰筑波義務教育学校）
令和５年度	・　継続的実践研究（桜並木学園、高崎学園）

学園一覧

小学校
中学校
義務教育学校

義務教育学校

学校名
秀峰筑波義務教育学校
春日学園義務教育学校
学園の森義務教育学校
みどりの学園義務教育学校

小学校・中学校

学園名	学校名
大穂学園	大曽根小学校、前野小学校、要小学校、吉沼小学校、大穂中学校
豊里学園	沼崎小学校、今鹿島小学校、上郷小学校、豊里中学校
桜学園	栄小学校、九重小学校、栗原小学校、桜中学校
吾妻学園	吾妻小学校、吾妻中学校
竹園学園	竹園東小学校、竹園西小学校、竹園東中学校
桜並木学園	並木小学校、桜南小学校、並木中学校
輝翔学園	谷田部小学校、柳橋小学校、谷田部中学校
高山学園	島名小学校、真瀬小学校、香取台小学校、高山中学校
光輝学園	手代木南小学校、葛城小学校、松代小学校、手代木中学校
洞峰学園	小野川小学校、二の宮小学校、東小学校、谷田部東中学校
茎崎学園	茎崎第二小学校、茎崎第三小学校、茎崎中学校
高崎学園	茎崎第一小学校、高崎中学校
虹色学園	研究学園小学校、研究学園中学校
翠輝学園	みどりの南小学校、谷田部南小学校、みどりの南中学校

「指導」から「伴走」へ

「伴走」による「自走」へ

令和６年度つくばの学び推進方針

発行月：令和６年４月
発行者：つくば市教育局学び推進課
〒 305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目１番地１
電話：029-883-1111(代表)
https://www.tsukuba.ed.jp